

平成23年度研究課題

本年度、当センターで取組む研究課題・事業課題を紹介します。

この他、市町、独立行政法人、漁業関係団体、企業等からの受託研究を行っています。

地付魚の蓄養技術の高度化と効率的な活魚輸送技術の開発 ～新鮮でおいしい魚を消費者に～ [開発研究]

地先定着型魚種を対象に、漁獲ストレスの軽減、最適な飼育環境の解明、新たな餌料開発などにより、商品価値を保ったまま長期間の蓄養を可能にする技術を開発します。また、輸送条件の検討などにより、活魚を経済的・安全に輸送する技術を開発します。このことで漁獲物の出荷調整、ブランド化など付加価値の向上を図ります。

連携機関：食品工業技術センター

むき身かきの鮮度保持の開発

～広島かきのシェア回復・拡大に向けて～ [開発研究]

広島県のかき養殖生産量は全国シェア No.1 を誇っていますが、以前のかきシェア7割前後から5割程度まで落ち込んでいます。県産かきの市場シェアの回復・拡大に向けて、むき身かきを生きた状態で消費者まで届ける技術（消費期限の延長技術）を開発します。

新しい需要が期待されるウマヅラハギの安定生産技術と高品質化の検討 [事前研究]

ウマヅラハギは、身離れが良い、骨が取りやすい、味が淡白でくせがない、それに魚価が手ごろなところから、子供や高齢者向きの大衆魚として最近見直されています。

一方、養殖されたウマヅラハギは、肝臓が充実しており、市場からのニーズが高いものの、供給量が不足しています。

このため、ウマヅラハギの養殖技術や種苗生産技術を確立し、県内養殖業者への普及を目指して、研究に取り組めます。

かき養殖資材を利用したアサリ垂下養殖技術の開発

[事前研究]

かき養殖業の夏場の収入源の確保と、アサリ漁場に対する資源供給を目的としたアサリ垂下養殖の可能性について検討します。

非破壊検査による殻付きカキの身入り判別技術の研究

[事前研究]

殻付きカキは身入り状態を把握することが難しいため、品質面でブランド化の障害となっています。このため、殻付きの状態でも身入り具合を把握できるシステムを開発します。

連携機関：西部工業技術センター

漁場環境・生物多様性保全総合対策委託事業

(瀬戸内海西部における有害赤潮等分布拡大防止)

かき等への漁業被害を未然に防止するため、有害プランクトンのモニタリングを実施して有害赤潮の発生動向を把握するとともに、調査結果を迅速に漁業者へ伝達します。また、マガキへ室内培養した有害プランクトンを曝露してその影響を評価します。平成23年度漁場環境・生物多様性保全総合対策委託事業、瀬戸内海西部赤潮共同研究機関（JV）の一員として実施します。

資源管理及び漁船等対策事業

(広域回遊資源動向把握調査・地先定着型魚種資源増大対策事業)

水産物の安定供給や水産資源の持続的な利用による漁業経営の安定を図るため、本県の主要魚種について科学的知見の基礎となる調査を実施し、魚種ごとに資源評価を行い、漁業者に情報提供します。また、漁場環境悪化や過剰な漁獲により減少している資源状況を回復するための計画策定と実施を支援します。



漁場環境総合監視事業

赤潮や貝毒等による漁業被害の未然防止や、水産物の食品としての安全確保を図るために必要な環境調査を実施し、情報の伝達を行ないます。

水産業技術指導

養殖業者自身が漁場環境を把握し、適正な飼育管理、漁場管理に努めるよう指導することで、疾病等の被害を軽減させ安定した養殖生産を図ります。また、特定疾病など養殖生産において問題となる魚病被害を防止・軽減するため、防疫対策研修会等により防疫対策の徹底を図ります。その他、養殖水産動植物の安全性を確保するため、養殖業者に対し魚病診断や水産用医薬品の使用について適切な指導を行ないます。